

20th Anniversary of OBAMA YEG



小浜商工会議所青年部 創立20周年記念式典

平成17年12月3日(土)
小浜商工会議所 大ホール

～ 0 ゼロ から 1 へ ～



==== 商工会議所青年部 ====

綱 領

商工会議所青年部は地域社会の健全な発展を図る
商工会議所活動の一翼を担い
次代への先導者としての責任を自覚し
地域の経済的発展の支えとなり
新しい文化的創造をもって
豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指 針

われわれ青年部は

1. 地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
1. 国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
1. 豊かな郷土を築くために 創意と工夫 勇気と情熱を傾けよう
1. 文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって 歩を進めよう
1. 行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ 国の礎となろう

商工会議所青年部の歌

「伸びゆく大地」

作詞 石井 耕二

作曲 石井 歓

1. 伸びゆく大地

伸びゆく大地 日本の

拡がる街なみ 青い空

集える仲間は それぞれに

地域を支える 気概持つ

願いをかたちに 変えるため

商工会議所 青年部

求めて我らは 立ち上がる

2. 幾山河を

幾山河を 越えていく

道は果てなく 遠いけど

夢追う気持ちは 忘れない

人と人とが 語りあい

心と心を 結ぶため

商工会議所 青年部

時代を我らは 先駆ける

3. 自由の海の

自由の海の 渚には

世界の波が 打ち寄せる

歴史の舵は いつの世も

熱ある者が 取ってきた

豊かな郷土を 築くため

商工会議所 青年部

明日に我らは 船出する

創立20周年記念式典プログラム

～0ゼロから1へ～

記念式典

15:00～16:00

小浜商工会議所 3階 大ホール

- 開会宣言
- 物故者を偲び黙祷
- 国歌斉唱
- 商工会議所青年部の歌斉唱
- 総領朗読・指針唱和
- 会長挨拶 小浜商工会議所青年部 会長 杉谷光由
- ご祝辞 福井県議会 議長 松崎晃治様
小浜市長 村上利夫様
- ご来賓紹介
- 小浜商工会議所青年部創立20周年記念事業紹介
 - * 記念植樹（御食国若狭おばま食文化館敷地にもみじを植樹）
 - * 「スローフード若狭おばま」設立
 - * 名水百選「鵜の瀬」給水所建設
- 会頭挨拶 小浜商工会議所 会頭 上野清治様
- 閉会宣言

記念講演

16:05～17:30

小浜商工会議所 3階 大ホール

- 「我々を育んでくれた地域社会の恵み」
小浜市 食のまちづくり課 中田典子氏

懇親会

18:00～

ホテルせくみ屋 3階 飛翔の間

- アトラクション 「Water [OLD] Boys」ビデオ 上映

● 来賓御芳名

(順不同・敬称略・11月25日現在)

福井県議会 議長 松崎 晃治 様
小浜市長 村上 利夫 様
小浜市議会 議長 山本 弘益 様
福井県嶺南振興局長 川波 清一 様
小浜商工会議所 会頭 上野 清治 様
小浜商工会議所 副会頭 山岸 博之 様
小浜商工会議所 副会頭 新谷 匠 様
小浜商工会議所 専務理事 清水 博敬 様
小浜商工会議所 事務局長 中野 敦夫 様
福井県商工会議所青年部連合会 会長 松本 典之 様
若狭青年会議所 次年度理事長 清水 雅彦 様
小浜市 観光交流課長 池上 秀樹 様

● 参加YEG

(順不同・11月25日現在)

福井商工会議所青年部 鯖江商工会議所青年部
武生商工会議所青年部 大野商工会議所青年部
勝山商工会議所青年部 敦賀商工会議所青年部



● ● ● 記念講演 ● ● ● 我々を育んでくれた 地域社会の恵み

講 師
中田典子氏プロフィール

主な経歴：

コンピュータメーカー勤務後、建築・デザイン関係の専門学校や短大にて、CADやCGの講師を約10年務める。2003年、社会人採用で小浜市食育専門職となる。

長年教育現場で働いた経験をもとに、食育事業の企画に取り組んでいる。

資格：ベジタブル＆フルーツジュニアマイスター
小学校教諭

ごあいさつ



小浜商工会議所青年部会長

杉谷 光由

食材も水も空気も美味しい、この若狭おばま。県外の知り合いにも自信を持って紹介できる、この若狭おばま。そこへ本当にタイミング良く出て来た『スローフード協会』。何故今まで設立されなかつたのが不思議なくらい小浜にピッタリの協会です。

それと食に関して大いに関わりがある『水』。お茶やコーヒーなんかだと、水の味がストレートに影響する。煮物や味噌汁、そしてご飯を炊くのにも水の味で左右されやすい。皆さんもご存知のように、この小浜にも幾つかの名水がありまして、代表されるのが雲浜地区の雲城水。その雲城水の水源が鵜の瀬と記されております。ではその水源地では飲める水は無いのか？ 鵜の瀬一帯はお水送りの行事で有名な所であり、観光客も頻繁に訪れる所でもあります。でも気軽に飲んでもらえる給水所が今までありませんでした。ここもスローフード協会と小浜の関係と同じで、名水百選に選ばれている鵜の瀬の地に何故給水所が今まで無かったのか。

又、観光客の為だけでは無く、市民の皆さんにも気軽に飲んで頂ける水を提供したい。そんな総合な思いにより、この二つの大きなプロジェクトを20周年記念事業として取り組んで来ました。

おかげさまで両方とも思い通りの結果になり、本日の記念式典を迎えることが出来ました。これもひとえに、企画から運営まで自分の仕事もかえりみず取り組んで頂きました会員の皆さん、商工会議所親会関係の皆さん、青年部OBの皆さん、木材や石などの提供をしてくださった地区の皆さん、そしてこれからもお世話になります組合や公共団体様の、多大なるご尽力のおかけかと誠に感謝しております。

今回の記念事業は一区切りいたしましたが、『スローフード若狭おばま』『鵜の瀬給水所』は後世にも残して行き、市民の皆様に浸透していきますよう願っております。

最後に、この事業を企画運営する上で、自分が生まれ育って来た小浜の魅力を再発見でき、よりいつそう好きになりました。こんな思いを掘り起こしてくれました小浜YEGに、心からありがとうございます。



創立20周年記念事業実行委員長

藤田 靖人

考えの甘さを痛感する毎日でした。

そんな時、不思議と青年部みんなの顔を見ると「ほっ」とするような感覚があり、晴れて2つの事業が何とか完了できたのは青年部会員が各自自分の能力を發揮しそれぞの持ち場で全力を尽くしてくれた賜物と考えております。「街づくりは人づくり」と言う言葉が表すように一人一人の力が何かを作り出してゆく事を実感しました。20周年事業の内容はメディア等に取り上げられたのでご存知の方も多いとは思います。この事業の成果は一般の方が決めるものだと思っていますが、ここに至る経緯やプロセスは何物にも代えがたい我々青年部全体の財産だと思います。

最後になりましたが、会頭、副会頭をはじめ会議所議員の方々、青年部OBの方々、食文化館と市観光交流課の方々、小浜商工会議所青年部20周年事業にご理解とご協力をいただき本当にありがとうございました。

まずは歴代会長及びOBの皆さんに、この青年部を今まで企画運営して頂いた事に対する敬意を表させて頂きます。

わたしも入会して18年目になり、発足以来ほとんどこの会にお世話になって来ておりました。ですが最初の数年は幽霊会員で、自分が面白いなと思える事業しか出席せず、会費と例会の出席数集めにしかなりませんでした。年が過ぎ今回、記念すべき20周年の年に青年部の会長を任されると言うのは、果して偶然なのか、なるべきしてなったのか、まあ引き受ける時にはそれほど深くは考えていかつたのが事実です。

10周年の時に余りにも素晴らしい記念事業をして頂きまして、それに並ぶ物は果して出来るのであろうか。無理だつたら簡単に有名な講師を呼んで来て、街造りの事で講義を頂いて懇親会で締めくくれば良いわ！などと安易な考えも持っていました。

それが蓋を開けて見ますと、我が小浜YEGのメンバーは『簡単には終わらせたくは無い。10周年の時みたいに後世へ受け継がれる物がしたい。』と大変前向きな姿勢の方ばかりでした。優秀なスタッフに恵まれまして、周年事業の骨格も大体決まってきて、食文化館への植樹から始まり、スローフード協会の設立、そして鵜の瀬給水所の施工と言う小浜YEGらしいと言うか、小浜YEGでしか出来ないような大変素晴らしい事業となりました。

食材も水も空気も美味しい、この若狭おばま。県外の知り合いにも自信を持って紹介できる、この若狭おばま。そこへ本当にタイミング良く出て来た『スローフード協会』。何故今まで設立されなかつたのが不思議なくらい小浜にピッタリの協会です。

それと食に関して大いに関わりがある『水』。お茶やコーヒーなんかだと、水の味がストレートに影響する。煮物や味噌汁、そしてご飯を炊くのにも水の味で左右されやすい。皆さんもご存知のように、この小浜にも幾つかの名水がありまして、代表されるのが雲浜地区の雲城水。その雲城水の水源が鵜の瀬と記されております。ではその水源地では飲める水は無いのか？ 鵜の瀬一帯はお水送りの行事で有名な所であり、観光客も頻繁に訪れる所でもあります。でも気軽に飲んでもらえる給水所が今までありませんでした。ここもスローフード協会と小浜の関係と同じで、名水百選に選ばれている鵜の瀬の地に何故給水所が今まで無かったのか。

又、観光客の為だけでは無く、市民の皆さんにも気軽に飲んで頂ける水を提供したい。そんな総合な思いにより、この二つの大きなプロジェクトを20周年記念事業として取り組んで来ました。

おかげさまで両方とも思い通りの結果になり、本日の記念式典を迎えることが出来ました。これもひとえに、企画から運営まで自分の仕事もかえりみず取り組んで頂きました会員の皆さん、商工会議所親会関係の皆さん、青年部OBの皆さん、木材や石などの提供をしてくださった地区の皆さん、そしてこれからもお世話になります組合や公共団体様の、多大なるご尽力のおかけかと誠に感謝しております。

今回の記念事業は一区切りいたしましたが、『スローフード若狭おばま』『鵜の瀬給水所』は後世にも残して行き、市民の皆様に浸透していきますよう願っております。

最後に、この事業を企画運営する上で、自分が生まれ育って来た小浜の魅力を再発見でき、よりいつそう好きになりました。こんな思いを掘り起こしてくれました小浜YEGに、心からありがとうございます。

今年度の20周年を迎えるに当たり、昨年より準備委員会を立ち上げ、20周年事業についてのプレーンストーミング的議論を重ねてきました。青年部会員が集まる懇親会の席上などでも20周年事業が話題になり、全体では1年間で100件に近い事業案が出ていたように記憶しています。

しかし、その中で打ち上げ花火的なイベントよりも未来に残せる企画と言う思いと、具体的な事業への絞込みが空回りし、事業計画は難航を極め、決定打が出ず今年度を迎えました。私は昨年度平会員で、あまり責任の伴わない立場から青年部活動に参加していましたので、本年実行委員長の大役を仰せつかり、事業遂行と会員間の思いに大変なプレッシャーを感じたのが実感です。

今年4月の後半、会議所会頭の後押しもあり、思い切って県内では初のスローフード協会の立ち上げと名水百選『鵜の瀬』給水所の建設と言う2つのプロジェクトを記念事業の柱に据え、青年部理事会の承認を得ることができ、暫定で予算案を立て、5月末なんとか事業開始にこぎつける事ができました。

この事業開始から私自身「男の口マン」を胸に、自己研鑽やボランティア精神を前面に会員の意思統一を図り、全てを自分たちの手で行うよう努力してきましたが、現実は予算面の困窮など言葉では言い尽くせないほどの多くの壁に直面し、自分自身の

お祝いのことば



福井県知事
西川一誠



小浜市長
村上利夫

小浜商工会議所青年部が創立20周年を迎えたことを心からお喜び申し上げます。

貴青年部は、昭和61年に創立されて以来、近年においては、「小浜城の再現」や「世界一長い鯖巻き鮓づくり」、「鶴の瀬給水所の建設」などの地域振興や、まちづくりなどに積極的に取り組まれ、小浜商工会議所の若き原動力として地域の活性化に貢献してされました。

こうした活動は、歴代の会長はじめ役員、会員の皆様のご熱意とたゆまぬご努力の賜物であり、深く敬意を表します。

現在、福井県の経済は、平成16年の完全失業率が3%と全国で最も低く、また平成17年度の高校卒業者の就職率が全国第1位であるなど明るい兆しがみられます。こうした中にあって、福井県では、さらに産力強化、開業特別資金などを活用した新規創業、若者就職支援センターの機能強化による雇用の確保などを強力に進めているところです。

さて、本年3月に県庁の若手職員が本県の25年後を想定した福井の将来像、県民の夢を「ふくい2030年の姿」として作成しました、その中で本県の産業が、世界をリードする他に真似のできない技術・ノウハウを持ち、福井県を本拠に世界市場で成功する企業の育成を目指しています。こうした社会の実現には、貴青年部をはじめとする次代を担う皆様のご協力が何より必要です。

今後とも、貴青年部の皆様には、大胆な発想とたくましい行動力、そして旺盛な起業家精神を發揮され、活力ある地域経済の実現に向けて取り組んでいただくことを期待しております。

終わりに、小浜商工会議所青年部の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご活躍を祈念申し上げまして、お祝いのことばといたします。

このたび、小浜商工会議所青年部が創立20周年を迎られ、記念誌を発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

貴青年部におかれましては、昭和60年に発足されて以来、地域経済の進行発展に寄与することを目的に、経済界の若きリーダーとして、地域経済の発展はもとより、地域づくりやまちづくりに貢献されてこられましたことに対し、深く敬意を表します。

この20年を顧みますと、当地においては、JR小浜線の電化や舞鶴若狭自動車道小浜西インターの開通などインフラ整備をはじめ、若狭路博2003の成果等、明るい材料はあるものの、時代の変化は著しく、今後さらに社会経済が高度情報化し、技術革新、グローバル化が進展する中で、厳しい経済環境の中を勝ち残っていくには、量より質、ナンバーワンよりオンラインワールドを目指すことが重要であると認識しています。

小浜市では、食の国の歴史と文化を礎に、全国に先駆け、平成13年に「食のまちづくり条例」を制定するとともに、昨年12月には「食育文化都市」を宣言し、食育、豊かな自然環境の保全、先人から受け継いだ食文化の伝承など、豊かで活力のある「御食国若狭おばま」の実現を目指して諸施策を推進しているところです。

今年3月28日には、この食のまちづくりを進める「心やすらぐ美食の郷・御食国若狭おばま」推進計画が国の第三次地域再生計画の認定を受け、今後、この推進計画に基づき、小浜市独自の文化や資源を有効活用しながら、産業振興や観光交流人口の拡大等、地域の活性化を図ってまいりたいと考えています。

貴青年部におかれましては、創立以来、バブルの到来と崩壊というまさに激動の時代を、持ち前の情熱と行動力で地域経済の発展にご活躍いただき、今年はまた20周年事業として、「自然・食・未来」をキーワードに“名水百選「鶴の瀬」給水所建設”や“スローフード若狭おばまの設立”など、常に地域政策とベクトルをあわせた活動を展開されていることは、食のまちづくりを進める本市にとりましても誠に有難く、心強く感じているところです。

今後とも、皆様方の若い柔軟な発想と行動力により、地域社会全体の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、次代を担うリーダーとして、さらなる飛躍をされますことを心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

お祝いのことば



小浜商工会議所 会頭

上野 清治

小浜商工会議所青年部の創立20周年を心からお祝い申し上げます。

昭和61年の創立以来、会員の皆さんは自己啓発と相互研鑽に努められ、一方では地域の青年経済人としてまちづくりにも大きな貢献をしてこられました。

例会やイベントでは独創的な企画を考え、強い結束力で、事業を行われました。

思い起こせば、青年部創立10周年での小浜の歌の創作。その入選曲「みんなのまち 小浜まち」と「なみ」は永くチャンネルOに唄われ、広く市民に親しまれ浸透いたしました。小浜商工会議所創立50周年での小浜城の復元、またディスカバー鯖街道での世界一長い鯖ずしなどはまさに青年部らしい斬新な事業でした。

青年部が若手経済人の団体として確固たる地位を築き、その卒業生が各方面で活躍されている姿を拝見し、満腔深謝の思いであります。20年の良き伝統を引き継ぎ、その志と行動力を次世代へ是非受け継いで行っていただきたいと考えております。

さて、これらの集大成として、今回の20周年記念事業は素晴らしい企画となりました。

ふるさと小浜の誇る伝統的な食文化を発信するため、県内唯一のスローフード協会の設立。伝統行事お水送りの神事が行われる鵜の瀬での給水所建設。どちらも真にふるさとを愛する会員諸賢らしい着眼点であります。時に激論が交わされ、困難に直面した旨も聞いておりますが、この事業を通じ、皆さんの力が一段と団結し、また小浜商工会議所青年部の名が更に高まることは間違ひありません。

今後、目まぐるしい社会環境の変化の中、地域経済に青年部の果たす役割はより一層高まってまいります。是非地域のリーダーとしての自覚を持って、お互いを高め合い、又、事業、商売の繁栄のために鋭意努力を続けていただきたいと思います。

最後に小浜商工会議所青年部のますますの発展と皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。



福井県商工会議所青年部連合会 会長

松本 典之

小浜商工会議所青年部が創立20周年を迎えたこと心よりお祝い申し上げます。

また、小浜商工会議所青年部の皆様には、当県連の事業活動に多大なるご理解とご協力を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。

商工会議所青年部は、青年経済人として資質の向上と会員相互の交流を通じ、自企業の発展と豊かな地域社会を築くことを目的として活動しているところですが、小浜YEGにおかれましては、昭和61年の結成以来、経済人としての資質向上を図るために経営研修会や、地域振興、まちづくりに積極的な活動を展開されておられますことに深く敬意を表します。

そのような青年部にあって、先日、福井新聞にて小浜YEGが20周年事業として取り組んでおられる「名水百選“鵜の瀬”給水所建設」の記事を拝見し、「さすが小浜YEG」とガッツポーズをしたいほど感激したところであります。このような事業こそ私たち青年部の綱領・指針に沿った最高の事業であり、小浜YEGの皆様が今回の20周年事業に取り組まれたことにより、一層の会員相互の親睦が深まり、結束力が増したことと存じます。

本年度、県連のスローガンは「ワン ステップ アップ！」です。小浜YEGが取り組むこの20周年事業は、まさに本スローガンを実践しているものと言えます。

私たち青年部の会活動の基盤は地域であり、その独自の歴史と文化を充分に認識され、地域の特性を活かしながら、豊かで住みよい地域づくりのために事業を展開している小浜YEGは、地域に誇れる青年部であり、今後ますます大きな信頼と期待を担うことと存じます。

次年度の県連会長には小浜YEG岸野君に決定しております。創立20周年を迎られ、ますますパワーアップされた小浜YEGの皆様の力で、次年度岸野県連会長を守り立て、県連で小浜パワーを発揮していただこうことを期待しております。

最後に本日を契機として、小浜YEGのより一層の活躍を期待申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝を心より祈念いたしましてお祝いのご挨拶いたします。

記念植樹

御食国若狭おばま食文化館敷地にもみじを植樹



20th Anniversary
of OBAMA YEG



「スローフード若狭おばま」設立

スローフード若狭おばま 設立総会・記念講演会



演題 「スローフードで世界が広がる」

スローフードジャパン 副会長 門上 武司 氏

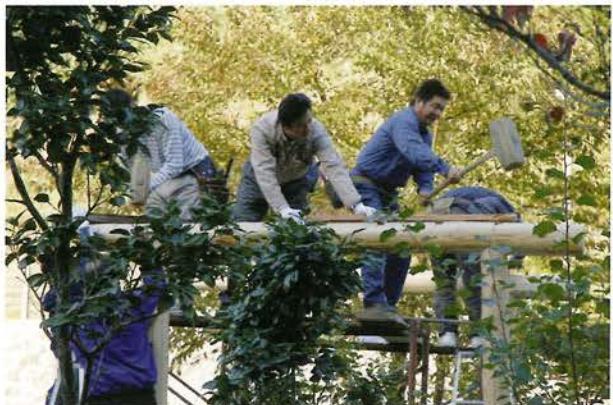


郷土料理 ふるまい 「レンコダイと谷田部ねぎの炊いたん」「若狭塩の福井県産こしひかり」

名水百選「鵜の瀬」給水所 建設



名水百選「鵜の瀬」給水所 建設



太郎

会報 KI-KA-N
特別編

歴代会長に聞きました 思い出に 残る…

思い出に残る研修旅行

永田 光一郎

私が会長させていただいた当時はバブルの絶頂期でした。海外に行くのが流行っていたこともあり、青年部の研修旅行でも香港、台湾に喜び勇んで行きました。工業団地やメガネ関連産業などを見学し、豪華客船で食事（あまり口には合いませんでしたが…）、立派なホテルでの宿泊など私にとって初の海外旅行は非常に充実したものとなりました。また、震災前の神戸にも行くなど、青年部ではよく旅行にいっていたという印象があります。

思い出に残る青年部10周年事業

田村 仁志

かつての青年部の活動の中で最も心に残る事業といえば10周年事業であろう。公募を行い小学校の子供たちに小浜をイメージしての詩を書いてもらい、その詩に曲をつけるということで、沢山の作品が集まった。あまりにも優秀な作品ばかりで、2作だけではなく、10作を選び表彰した。そのうちの2作にダカーポに曲をつけてもらい、いざ発表コンサートの段になったが、思うように前売り券が売れない。資金的に厳しい中でのスタートなので、なんとしても文化会館をいっぱいにしたい。そんな思いの中、受賞した10組の子供たちの家を訪ね、親1名分の招待券を渡し、ご家族で是非ご来場をとお願いした。その結果当日は立ち見が出るほどの盛況で、入りきれずに帰られた方多かったとのこと。今、チャンネル0で流れている曲を耳にすると、あのときの子供たちはどうしているのかと思い、私達の願いどおり、ふるさと小浜を愛し、どんな形でも良いから小浜の町づくりに関わってくれることを願わざにはいられない。20周年を迎える、そんなことを考えていた。

米村 真生

二十年前PCの普及率は0%に等しかった。今はITとメディア融合の時代である。想定の範囲外であろうか。

連日連夜水野事務局員と口角泡を飛ばし青年部のレールを如何に敷くか議論したのを思い出す。まさに今の時代を想定して夢を語り合った。すなわち高度化し多様化する経済環境の要請を先取りするための事業を中心として異業種交流たる青年部を発展させようとするものであった。水野君今はいずこに。





思い出に残る小浜城！

清水 潔 隆

『再現小浜城！今ここに…』何と云ってもこれが一番心に残っています。当時（今も、そうかもしれません）の青年部は、建築屋さんが多く、専門的知識とボランティア精神、そして市民参加と云う事で子供達に城の絵着けをしてもらって、原寸大の小浜城の絵を城跡に建てる壮大なものでした。それにプラス、酒井忠勝公を演じる村上市長達の寸劇など、青年部会員の底力を市民にアピール出来た事は今でも誇りに思っています。



『270M』

岸野 光恭

ウォー！！完成一つ！

何と云っても、千人参加による、『五食鯖巻寿司』以外には考えられない。若狭路博プレイベントでの一幕。

完成した巻寿司を持ち上げた瞬間の歓喜に満ちわびた声・声・声。

選一食材、考一段取、手順、動一連携、全員が一丸となり大事業をやり遂げた達成感は今でも鮮明な記憶として。

その後、各地区イベントに取上げられている事を考えると、大変だったけれどやってよかったと思う今日この頃デス！ みなさんありがとう。



記念事業協賛者御芳名

小浜商工会議所青年部創立20周年記念事業に、御協賛いただきまして
有難く、厚く御礼申し上げます。（順不同・敬称略）

上	坂	石	田	二	三	(有)かく兆
河	村	石	田	喜	磨	(株)イシダ
木	幸	石	田	代	信	(株)志保重
坂	正	清	水	正	信	(株)新谷登商店
芝	二	新	谷	昭	一郎	杉谷土地家屋調査士事務所
谷	清	杉	谷	長	昭彦	(有)山下薬局
時	邦	山	下	政	生	米村司法書士事務所
時	剛	米	村	真	幹	福井物産(株)
内	節	松	原	博	之	(株)大下博商店
橋	節	大	下	博	治	(有)ホテルアーバンポート
原	利	山	岸	清	一	小浜海産物(株)
逸	知	上	野	晴	雄	(株)辻井塗装
前	禮	辻	井	秀	夫	(有)豊和自動車整備
樹	壽	萩	原	秀	典	(株)ふじ装美
松	光	藤	本	泰	雄	(株)日登建設
村	三	山	井	登	志	(有)松井兄弟社
横	好	松	新	健	雄	小浜マイカー販売(株)
吉	良	森	宮	節	二	旅館 水月
石	平	藤	脇	喜	夫	(有)せくみ屋
井	直	田	原	已	男	(有)島長商店
河	俊	田	中	佳	信	(有)田中建設
木	政	田	谷	政	義	若狭建設工業(株)
小	輝	田	田	仁	匠	(有)田村長
斎	清	新	新	吉	志	(株)未来プランニング
佐	間	田	田	辰	満	石坪縫工所
嶋	幸	浜	浜	井	雄	(株)フナイワーカス
杉	智	石	岸	坪	勉	(有)アイガー建築設計事務所
高	雄	船	村	井	誠	都 菓子舗
長	一	寺	中	中	治	大下漆器店
中	雄	大	寺	藤	朗	(有)カーパレス・ユー
西	健	前	井	一	宏	(有)風呂材木店
浜	春	風	下	下	文	(有)尾の新工所
早	裕	尾	田	呂	彰	若狭明販(有)
平	之	本	野	上	久	(株)未来プランニング
藤	将	清	村	村	潔	(株)明輪社
星	浩	池	東	水	孝	(有)アルファプラン
前	司	田	野	田	孝	小浜海産物(株)
水	賢	野	崎	野	治	(有)斎藤酒店
山	武	岩	藤	崎	一	遠敷地区区長会
吉	司	齊	尚	仲	男	下根来区
清	野	佐	野	佐	實	さみどり会
	久	古	野	前	清	
	米	佐	雅	雅	義	
	男	古	岡	一	郎	
		上	佐			
		山	前			
		吉	岡			
		博	佐			
		水	一			
		敬	郎			

遠敷5区自治連合会
若狭おばま観光協会

■ 懇親会 アトラクション 「Water [OLD] Boys」ビデオ 上映 ■

Water^{OLD}Boys

OBAMA YEG



小浜商工会議所青年部

杉 谷 光 由	杉谷建設(有)	米 村 幸 真	(株)ヨネック
下 中 伸 浩	(有)下中インサツ	杉 谷 長 啓	杉谷事務所
逸 見 伊 知 郎	(有)せくみ屋	松 吉 恭 孝	(有)KYコーポレーション
内 藤 康	(株)内藤	中 島 福 则	(株)中島建築板金
松 井 龍 太 郎	(有)クリエート調査設計	小 堂 勝 幸	こどう運輸(有)
桑 田 博 敏	桑田テント(株)	矢 野 浩 和	(株)ふじ装美
高 鳥 隆 雄	(有)高鳥紙業	小 坂 本 和 圭	酒菜屋どんど
清 水 勇 雄	(株)志保重	古 津 博 毅	(株)ブライダルサカモト
東 野 秀 哉	東寿し	橋 本 勝 博	小浜海産物(株)
平 野 泰 之	(株)ひらの伊	山 岸 泰 之	(有)橋本設備商会
森 下 晃 壱	森下建材(有)	田 中 政 哉	(有)ホテルアーバンポート
藤 田 靖 人	藤田園茶舗	藤 本 広 美	司法書士 田中事務所
松 岡 泰 夫	(株)松岡工務店	亀 江 伸 夫	(株)住みかえ情報館
岸 野 光 恭	(有)山文岸野商店	波 照 間 作 宏	メガネのスキップ
平 井 快 明	(株)ヒライ	内 藤 直 人	山本電気工事(株)
岩 崎 育 己	三福タクシー(株)	大 井 一 博	ナイトウ工芸
羽 田 浩 一	羽田漆器店	長 野 良 光	大井冷暖房
滝 野 裕 士	(株)滝野商店	山 崎 直 樹	ナガノ写真館
田 辺 隆 明	(有)田辺製材所	中 野 貴 之	(株)ヤマックス
板 庇 暢 之	(有)オフィス芝田	杉 本 幸 弘	(株)とば屋酢店
寺 川 昌 宏	海老喜	森 田 貴 士	浜坂会計事務所
松 葉 洋 記	マスターピース	針 田 健 二	(有)モリタインサツ
横 山 政 幸	(株)スカイビル横山	岩 崎 正 洋	小浜商工会議所
畠 田 和 成	(有)若杉		小浜商工会議所



● 名水百選「鶴の瀬」給水所 ●

小浜商工会議所青年部

〒917-8533 福井県小浜市大手町5番32号
TEL(0770)52-1040 FAX(0770)53-3567
URL <http://www.fukui-iic.or.jp/obamacci/yeg/>